

2019年度 ソニー幼児教育支援プログラム

## 「科学する心を育てる」

～豊かな感性と創造性の芽生えを育む～

「**出会い**」は「**やってみよう!**」の**出発点**♪

～あそびあい かんがえあう ゆたかなところ～



南陽市立赤湯幼稚園

## 目 次

|                                         |    |
|-----------------------------------------|----|
| 1、はじめに                                  | 1  |
| 2、テーマ設定の理由                              | 1  |
| 3、研究の方法                                 | 1  |
| 4、構想図                                   | 2  |
| 5、実践事例 「泥だんごを作ろう！」 対象年齢 3・4・5歳児 令和元年4月～ |    |
| 実践① 「泥って気持ちいいな♪」 対象年齢 3歳児               | 3  |
| 実践② 「きれいな泥だんご作りに挑戦！！」 対象年齢 4歳児          | 6  |
| 実践③ 「ピカピカ光るきれいな泥だんごを作ろう！」 対象年齢 5歳児      | 8  |
| 6、泥だんご作りの実践から                           |    |
| 「科学する心を育てる」保育の考察                        | 14 |
| 7、2018年度論文 2019年度へのアプローチから 実践経過の考察      | 16 |
| 8、2020年度 「科学する心を育てる」保育へのアプローチ           | 19 |
| 9、おわりに                                  | 20 |



## 科学する心を育てる

～豊かな感性と創造性の芽生えを育む～

# 「出会い」は「やってみよう！」の出発点！

～あそびあい かんがえあう ゆたかなころ～

## 1、はじめに

「大きくなったら仮面ライダーになりたい」

「プリキュアになりたい」

「ユーチューバーになりたい」

子どもたちには未来があり、大きな夢を抱いている。しかし、目の前の子どもたちの未来は大丈夫だろうか……。ゲリラ豪雨、水不足や日照不足などの異常気象。情報化やグローバル化といった社会変化。テレビからは痛ましい事件の数々。

いつの時代も子どもたちには大きな夢をもち、未来を生きてほしい。困難に出会ったときには、未来を切り拓く、強く、柔軟な心をもち、乗り越えて欲しいとねがっている。未来ある子どもたちに、生き抜く力の基礎を育むことをねがい、「科学する心を育てる」視点で改めて保育を見つめ直した。当たり前の保育の中に大切に積み上げるもの、変わらないもの、変えていくものが見えてきた。

これまで積み上げた本園の「科学する心を育てる」保育の意識をさらに高めるため、今年度の実践の経過から振り返り、考察する。

## 2、テーマ設定の理由

「安心・安全な環境の中で保育者や友達との信頼関係」をしっかりと築き、「心揺り動かされる体験ができる環境構成」を意図的・計画的に行い、園生活や遊びの意欲の土台をつくっている。一人一人が環境に主体的に関わる「出会い」を通して感じる、心揺り動かす体験の積み重ねから「科学する心」は育まれると考える。さらに「科学する心を育てる」ことを、本園の目指す子ども像である「あそびあい かんがえあう ゆたかなころ」を軸に考察する。また、「出会い」や「やってみよう！」のわくわく感を子どもと共に楽しみ、「科学する心」を育みたいと考えた。

**あそびあい**・・・「出会い」や友達との関わりにわくわくドキドキを感じ、夢中で遊び込む

**かんがえあう**・・・じっくり考え、試したり、友達と考えを出し合いながら、体験を重ねる

**ゆたかなころ**・・・人、もの、出来事に関わり、感じた事を表現したり、目標に向かい粘り強く挑戦する

## 2、研究の方法

- ① 「あそびあい かんがえあう ゆたかなころ」を読み解いたキーワードを手がかりに、「出



会い」を通してうまれる「やってみよう！」の意欲から、「科学する心」が芽生え、育まれる道筋を考察する。

- ② 各事例を実践事例集 vol.16 に照らし合わせ考察し、「出会い」を通して繰り返しながら、遊びからの学びが深まる過程と成果に迫る。

## 4、構想図

～教育目標～

1 自分のことは自分でやる子ども 2 友達と元気に遊び熱中する子ども 3 よく見、よく考え、よく表現する子ども

### 科学する心

～豊かな感性と創造性の芽生えを育む～

「やってみたい！」を試したり、振り返ったりしながら、実現に向かって真剣に取り組む。



友達・保育者とじっくり、たっぷり、粘り強く取り組む。



人、もの、出来事との「**出会い**」・興味関心をもつ。

**あそびあい**  
子どもの主体性を育む

「どうして？」「わかった！」を対話や発表を通して自分の考えを出し合ったり、新たな考えに気付く。比較する。



これまでの体験や知識を生かしたり、友達と力を合わせて乗り越えようとする。



実体験を通した「**出会い**」から触れたり、感じたり、考える。

**かんがえあう**  
豊かな感性を育む

「できた！」「もう一回！」充実感や、達成感を味わう。もの・人・自然へ思いやりの心をもつ。



自分なりの課題を見出し、体験や知識を生かしたり、さらに工夫しながら諦めずに取り組む。



「**出会い**」に向き合い、「やってみよう！」「こうしよう」と興味関心をもつ。  
**ゆたかなころ**  
創造性を育む

### 「健康な心と体」

基本的生活習慣の確立・信頼関係・安心できる場の保障

「**出会い**」・「**やってみよう！**」と関わりたくなる援助・環境構成の工夫をおこない育ちを支える  
繰り返しおこない、保育者の感性・質を高める

- ・子どもの言葉や表情、仕草を丁寧に見取る（**観る**）
- ・子どもの思いや考えを言葉や表情、仕草をもとに理解する（**支える**）
- ・子どもの遊びの姿と保育者の援助・環境構成から、課題とねらいを考える（**工夫する**）
- ・具体的な手立てについて実践・考察を繰り返す（**振り返る**）

## 5、実践事例 「泥だんごを作ろう！」

令和元年4月～ 対象年齢 3・4・5歳児

本園で毎年毎年繰り返し遊び継がれている泥だんご作り。泥だんご作りに興味関心を抱く入口は・・・初めてのものと「出会い」、「たっぷり・じっくり触れ、試す」体験を通し、「やってみよう！」の意欲が芽生えた瞬間と考える。泥に触れることや、泥だんご作りに熱中する3・4・5歳児の遊びの姿から「科学する心」が育ち、深まる過程を考察する。

「科学する心を育む」 ～豊かな感性と創造性の芽生えを育む～

～「出会い」は「やってみよう！」の出发点♪～

あそびあい・・・「出会い」や友達との関わりになくなくドキドキを感じ、夢中で遊び込む

かんがえあう・・・じっくり考え、試したり、友達と考えを出し合いながら、体験を重ねる

ゆたかなところ・・・物や人と関わり、感じた事を表現したり、目標に向かい粘り強く挑戦する

※「科学する心を育てる」キーワードとして事例に照らし合わせる（赤・青・緑）

### 実践①

「泥って気持ちいいな♪」

令和元年4月～ 対象年齢 3歳児

～対象物と出会い、たっぷり・じっくり遊び合う姿から「科学する心」の芽生えを見取る～

・子どもの姿 「科学する心が育つ」キーワード（赤・青・緑） ○保育者の援助●環境構成



泥との「出会い」♪



「ぐるぐる・じゃ～」繰り返す



・友達や保育者と同じ場にいることで安心し、喜んで自分のやりたい遊びを楽しんでいる。砂場に初めて入ったA児。

A児「ちょっと触ってみようかな。うわ・・・（汚れるのはちょっと・・・）」

と手が汚れることを躊躇している。保育者はA児の思いを汲み取り側で触れてみせる。しばらく考えている様子のA児。『シャベルで触ってみよう！』とひらめき、道具を持ち出し泥に入れる。

4歳児が作った池で水と砂をくるくる混ぜたり、シャベルを持ち上げたりしながら泥に触れ、片付けまで黙々と遊んだ。

✿ 雨上がりの園庭に出てみると・・・

A児「あっ！水たまり発見！！」

と駆け出す。初めての泥との出会いから、砂や泥にたっぷり触れて遊んだことで、手が汚れることへの躊躇はないようだ。

一人、園庭の真ん中の水たまりで黙々と手で泥を集め二輪車に入れる。

A児「泥って面白い◎！」

○●興味をもち出した  
A児に「気持ちいいよ」「楽しいよ」と伝えるよう保育者も一緒にやってみる。

○黙々と夢中になる A児を見守りながら、言葉にならない思いを汲み取る。「気持ちいい！」を感じ、砂や水、泥の感触にたっぷり触れ、楽しめるようにする。

○「面白いね」と共感したり、A児の思いをさらに引き出す声かけをする。「もっと！」につなげるための工夫を考える（見守り・共有する仲間や保育者の関わりなど）。



保育者「あっ！丸めた♪」  
泥だんごの出発点♪

・保育者や友達と一緒に安心し「やってみ  
たい！」を試す。手が泥だらけでも平気♪  
子「うわ～、泥って**あったかいね！**」  
保「どうしてあったかいんだろうね？」  
子「お日様であったかいのかな？」  
子「泥って**べたべたするね！**」  
と感じたこと、考えたことを伝え合い、  
**一緒に楽しむ仲間が増える。**

・水たまりの泥の感触を楽しむK児。  
手のひらにのせ、さらに反対の手のひら  
にのせることを何度も繰り返していた。  
「あっ！」と気付いたことを言葉にする。  
K児「泥って**ぽたぽたしてる！**」 さらに、  
K児「**ぺったん、ぺったん・・・もちつき  
みたい！！**」

K児は自分の発見、感じた事をにこにこ  
と保育者に話しながら、見せてくれた。  
保「先生にもやらせて・・・ほんとだ！！」  
とK児と思いを共有する。

・園庭の水たまりに砂場の樋を運び並べ始  
めたS児・K児。さらに、水を入れたペ  
ットボトルを運んでくる。

「流すよ～！」

「いいよ！」

「(水が) 行った～！！」

と声をかけ合いながら、樋を流れる水の  
様子をみて**喜び合う**。しかし、

「**あれ・・・(何かが違うと感じている)**」

「**・・・(しばらく考えている)**」

4・5歳児がコンテナや樋を使い大胆に  
遊ぶ姿に憧れ、真似をしてやりたかった  
様子。イメージした水の流れとは違った  
ようだが、「いっか～！」と再び水を流し、  
水たまりに水をたくさん溜めようと繰り  
返すことを楽しみはじめた。

・数日後、園庭の水たまりの跡に水を流し、  
**泥を手で丸めはじめた**A児。見ていたK  
児も関心を持ち**一緒に泥を丸め始める**。

○保育者も一緒に触  
れる。「本当だね♪」  
「どうしてあったか  
いんだろうね？」と  
子どもの気付きを  
さらに引き出す声  
かけをし、思考する  
力を育む。

○「やってみたい！」  
ことを繰り返し楽  
しむ中で、考え、試  
し、疑問に思う経験  
をする姿を見守る。

●○保育者は子ども  
の気付きと一緒に  
体験し、共感するこ  
とから、「もっと！」  
の意欲につなぐ。

●園庭に水を流す・穴  
を掘る使い方や、リ  
レー、かけっこ遊び  
のスペース確保に  
ついて、職員で話し  
合い共通認識を図  
る。決まりや約束を  
子どもに考えさせ  
たり伝えることで、  
園庭での「やりた  
い！」を共有できる  
ようにする。

○4・5歳児と一緒に  
遊んだ体験から、模  
倣する姿を見守る。  
イメージ通りにい  
かず友達と一緒に  
思考する姿を見守  
り、子どもたちなり  
に楽しめる場面を  
大切にする。





・繰り返し、泥の感触を楽しむA児、K児。  
A児・K児「(集めた泥を丸めて) ぎゅっ、ぎゅっ、ってするんだよ」

保「先生にも教えて～」

保育者も泥を手に取り、一緒にやってみる。

・泥だんご作りをする5歳児との交流から見て、真似て「やってみよう!」とする。「できた!」と、手のひらサイズの小さな泥だんごを嬉しそうにビニール袋に入れてもらい、4・5歳児の真似をして下駄箱に大切にに入れていた。



年長さんと一緒♥

●保育者も泥に手を入れ、感触の楽しさを一緒に味わう。

●泥だんご作りの興味が深まるよう、異年齢の遊びをつないでいく。

○「できたね」と、嬉しい思いに共感したり、4・5歳児に抱いた憧れの気持ちを大切にする。

## ◆考察◆

### 実践① 「泥って気持ちいいな」 3歳児

・はじめは手が汚れることを躊躇した子どもたちも、じっくり遊び込める時間と場を保障したことにより自から土や泥、水に関わり「やってみたいな」から「やってみよう!」の心の変容を見取ることができた。初めての園生活に「出会う」3歳児にとって、保育者や友達と安心できる信頼関係を築き、安心できる居場所(園・クラス・友達・保育者)を創ることの重要性を再確認できた。

### 「出合い」は「やってみよう!」の出発点♪

#### 観る

子どもと一緒に楽しむ中から、気付きや驚きの言葉を逃さないよう、保育者の感性を高めた(聴く・観る)。



#### 支える

園庭の水たまりも子どもの創造力を掻き立てる場として、職員間の共通理解を図った。



#### 振り返る

写真を活用したミーティングから3歳児のものと「出合い」を意識した。「やってみたい」意欲が高まっていく心に寄り添い共に楽しんだ。



#### 「やってみたな」 泥との「出合い」

#### 工夫する

「やってみたい!」「どうして?」を保育者や友達とたっぶり試せる時間と場を保障した。



・3歳児は初めての『もの』との出会いに心が揺り動かされ「やってみたい!」と意欲がうまれる。保育者は子どもの思いに寄り添い、触れる、感じる、考える体験をたっぶり楽しめる環境を大事にしたことから「科学する心」が芽生え、育まれた。泥や水にたっぶり触れたことから泥だんごへの興味も高まった。

## 実践②

## 「きれいな泥だんご作りに挑戦！！」

令和元年4月～ 対象年齢4歳児

～憧れとの出会いから「もっと！こうしてみよう！」の意欲・「科学する心」を育む～



ここがいいよね

・園庭に水を運び、泥だんごのもとを作る。昨年の泥だんご作りの体験を生かし、お気に入りの場所に水を流す。泥を手に取り、「ギュッ・ギュッ」と固めている。

・5歳児が同じ場所で泥だんごを作る様子を見ながら「年長さんみたいに作ってみたい・・・」と一緒に挑戦する。



・泥を手にとり「ギュッ」と水を絞る。「かけて、かけて、コロコロ、ギュッ」と唱えながら、砂をかけ余分な砂を落とし握る。5歳児が場所を変えると後を追ひ、「ここがいいかな?」「いいね!」と共有する。

・「できた!」と喜び、5歳児の泥だんごと比べてみる。表情が変わる。

「ん〜。年長さんの方が丸くてきれいだ・・・」  
「年長さんみたいな（丸くてきれいな）泥だんごを作りたいな」と憧れを言葉にする。



ん〜・・・  
なんか違うな・・・

憧れが思考の入口につながる「出会い」♥



丸いだんごになってきた!

保「どうしたらできるのかな?」

S児「もっとギュッギュッてやろうかな」  
比較し考えたことで、強く絞ったり、砂をかけてしっかり握ってみる工夫をする。  
「壊れた」「ちょっと失敗」「もっときれいに作る!」と何度も挑戦する内、「前より上手になってきた!」を実感する。

・繰り返すうちに、泥だんごのもとを作る場所や仕上げの砂を「こっち!」「今度はこっちで作ろう!」と比較しようとする。

子「先生、仕上げはこっちの砂かけるんだよ」と、自分たちのお気に入りの仕上げの砂を教えてくれる。

Y児「私はこの砂をかけてみる。黒くて固まりそうだから」

Y児がを見つけ出した場所は4歳児はまだ誰も試していないところだった。



この砂はどうか?

●「先生も泥だんご作りたい!」と一緒に作り、多様な思いを共有する。

○諦めずに繰り返し挑戦している姿を捉え、「さっきより形がよくできているね」「固くできたね」など、上手になっていることを認め、子どもたちの手ごたえを共感する。

○5歳児と比較し、考える姿に寄り添いながら「どんなところが違うんだろう?」「どうやったらできるかな?」と作り方を考えたり「やってみよう!」の意欲につながる声がけをする。

○仕上げに合う砂を探る姿を見守り、見つけたときの喜びの気持ちや言葉を受け止め、周りの子にも広げる援助をする。

○「Yちゃんすごいね!」Y児が砂を比較し、友達に伝え、共有しようとしたる気持ちを認める。





あっ！いいね！

見て！

砂の質もわかる泥だんご職人

- ・砂場の砂と、園庭の砂の質の違いを感じ、「(砂場) こっちのもいい」「ちょっと白くなるね」と話しながら、砂場の砂も仕上げて使い始める。
- ・K児、S児、O児の3人は「もっと大きいを作ろう！」とひらめき、挑戦しようとするが、O児は気づきを言葉にする。O児「大きいと壊れるよ。手から出ると(大きくて手からはみ出して)ギュッてできないから」と気づき、2人に教えていた。

O「どうして大きいのはダメなの？」とO児の考えを引き出す声がけをする。  
「なるほど！ギュッとできないと水が絞れないもんね」とY児の考えを認め、共感する。

## ◆考察◆ 実践② 「きれいな泥だんご作りに挑戦！」 4歳児

- ・壊れた、失敗、の体験から比較や、「どうしてだろう？」と思考し、「こうしてみよう！」と探究する姿に、「科学する心」が育まれていることを見取った。うまくいかない体験も、諦めずに何度も挑戦しようとする気持ちを支えたのは、「5歳児と同じきれいな泥だんごを作りたい！」というねがいをもったからではないだろうか。
- ・仕上げの砂探しではY児が5歳児が試す姿に刺激を受け、自ら試し、「いい感じ」を実感し、友達に教えたのだろう。対話を通して考えを伝え、みんなで「やってみよう！」とする意欲が同えた。

## 「出会い」は「やってみよう！」出発点♪

### 観る

友達との会話、これまでの体験を生かし、思考する言葉に着目した。「ここはいいね！」「この砂は仕上げの砂にならない」「ここはどうか」



### 支える

「どの砂がいいんだろう？」「壊れた。もう1回！」と試行錯誤し、探究・思考する姿を支えた。



### 振り返る

「わかった！」「できた！」「失敗」をクラスで発表できる場面を作り、みんなで共有する。友達の発表を「やってみよう！」意欲へつなぐ。



### 憧れとの「出会い」から「やってみよう！」

### 工夫する

友達の気づきや発見を広げ、遊びを深める声がけを意識した。友達や異年齢交流から学び合う姿を大切に見守った。



- ・5歳児への憧れとの出会いから、意欲がうまれた。友達や異年齢との関わり、クラスの発表タイムの場面作りから、「もっと！」と挑戦とする意欲につなげていきたい。

### 実践③ 「ピカピカ光るきれいな泥だんごを作ろう！」 令和元年4月～ 対象年齢5歳児

～「やってみよう！」の実現に向かい、思考し、考え合う姿から「科学する心」を育てる～

#### ◆エピソード1 「色つきの泥だんごを作りたい」

泥だんご作りに夢中になっていたJ児。「色つきの泥だんごを作りたい」と思いつく。昨年も図鑑を見て作った体験があったのだろう、と考えた担任は「年中さんの時はどうやって作ったか覚えてる？」と尋ねた。「作ってないよ」と答えるJ児。早速J児と一緒に作り方や道具を考える。

担任は昨年5歳児（現1年生）が体験した色つきの泥だんご作りの写真を掲示し、想起する環境を作った。



真似してみよう！

#### ～「色がつかない…」～

・すり鉢にクレヨンをかすりつけ、振るった砂を入れてすりこぎ棒で混ぜるが溝にクレヨンが入り込んでしまい、思うように着色できない。イメージしたように砂に色がつかない。考えるJ児。担任は、

保「Jちゃん、O君の見て」と伝えてみた。

J児「あっ！！O君の砂、色ついてる！」

O児のやり方をじっと見ていたJ児は、道具の違いに気が付く。さらに、

J児「平らな入れ物がいいんじゃない?!」

J児はすり鉢とタライの底の形の違いに気が付いた。O児は洗面器の平らな底面に直接クレヨンを塗り、砂を混ぜていた。O児の砂は、少し着色し始めていた。

側にいたN児、R児も気が付き、プラスチックコップを持ち出し底をクレヨンでこしこしこする。砂を入れてさらにこすると、うっすらと色がつきはじめた。

N・R児「あっ！！見て！」

と互いに見せ合っていた。

N・R児「少し色がついてきた♪」

J児も一緒にやってみるが・・・イメージとはまだ違うようでスッキリしない表情をみせる。

保「Jちゃんはどうしたいの？」

J児「もっといっぱい色をつけたい・・・」

●材料や道具をJ児の考えをもとに、準備する。

●J児と準備したもの

- ・クレヨン・すり鉢
- ・すりこぎ棒・ボウル
- ・洗面器・コップ
- ・ふるい

○「やってみよう！」と試行錯誤し、挑戦する姿を認める。

○友達のやり方にも関心がもてるように、声がけをする。

●O保育者も一緒に作り、アイデアを出し合ったり試しながら楽しむ。一緒に楽しむことで、J児の微妙な表情の変化を読み取り、思いを引き出しながら共感したり、支える工夫をする。





### ～「そうだ!!」～

r児「あっ!! **いいこと思いついた!!**」  
 黙々と手のひらにクレヨンを塗り始めた。  
 保「何してるの?」  
 r児「こうやって、手のひらに塗って・・・  
 泥だんごを磨くと・・・ほら!! 色がついたよ!」  
 r児「ん～・・・でも少しだな」  
 なんとか**色付きの泥だんごを作りたい!**そんな思いから、**友達のやり方からヒントを得たり、自分なりに考えたことを試す。**  
 しかし、思ったような色付きの泥だんごはできない・・・。  
 子「もっといっぱい色を付けたいんだけど」

### ～「聞いてみよう」～

木陰を選び**黙々と**色付き砂、色付き泥だんご作りをする。  
 「砂に色は付くけど・・・」  
**イメージした色付き泥だんごにならない。**  
 「**もっと違うやり方があったのかな?**」と考え、昨年色つき泥だんごに挑戦していた子にヒントをもらおうと尋ねる。しかし、「覚えてない。どうやったんだっけ」と記憶は曖昧。暑い中、夢中で作った子どもたちの**表情が変わる。**

●考えたこと、ひらめきをじっくりたっぷり味わう時間と場を保障する。  
 ○考えや気づきを言葉で表現し、互いに刺激を受けて「やってみよう!」につながる声かけの工夫や、場面に応じて見守ることを考慮する。  
 ☆色付き泥だんごは子どもたちが想像していた以上に難しかった。様々な道具や方法を試行錯誤し、粘り強く挑戦した子どもたちの意欲を認めた。「できた!」を味わうことも次の意欲につながると考え図鑑で調べた絵の具を近所の文具店に問い合わせたがなかった。諦めず、また次に向かう子どもの姿に保育者は寄り添い、支えていきたい。  
 (☆ 保育者の思い)

イメージした「色つき泥だんごを作りたい!」を実現することはできなかった子どもたちだったが、泥だんご作りの興味は途切れず、「光る泥だんご作り」に思いは移行する。  
 子どもたちの言葉から、**目指す泥だんご作りのイメージが確かなものになっていく**ことを感じた。

## ◆エピソード2 「ピカピカ光るきれいな泥だんごを作ろう!」

### ～「出会い♪」～

J児「いい砂ないかな～」  
 泥だんごのもとを作り、いよいよ仕上げに入るJ児が担任に尋ねてくる。  
 J児「(仕上げの) **いい砂が見つからない**」  
 きれいに仕上げるため、どこの砂がいいか**考え、悩んでいる**ようだ。  
 J児「**今までの砂じゃないところがいいんだけど**」

●今年度、仕上げの砂は置かない(思考・比較・探究する力が育まれるのでは、と職員で共有する)。  
 ○J児の表情を読み取り思いを引き出す。



J児の思いを汲み取り、  
保「去年の年長さん、ここでも仕上げしたよ」  
とホールのテラス前を教えてみた。

J児「え？ここ？」

イメージと違ったのか驚く。

J児「砂ないよ」

と。確かに（笑）。子どもたちが考える仕上げの砂は「サラサラ」「ふわふわ」しているもの。テラス前は小さい石ころなどがあり硬そう・・・。

保「去年の年長さん、こうやったの♪」  
と地面を足で削って見せる。

J児「あっ！」

削った中からサラサラの砂が出てきた。J児は明らかに表情を変え、砂をかけ始めた。片付けの時間になり、J児は作りかけの泥だんごを大切に袋に入れ、そっと下駄箱に入れた。

J児「先生、発表タイムでみんなに教えたい！！」

と伝えてくる。降園前の発表タイム、

J児「今日、泥だんごを作りました。サラサラの砂を見つけました！」



～「見つけた！たからの砂！」～

前日のJ児の発表を聞き、早速ホールテラス前で泥だんごに砂をかけ磨いている。

K児「先生見て！いい感じ（ツルツル）！ぼく

の泥だんご小さいでしょう♪」

R児「僕は4個も作ったんだよ」

N児「ここ、たからの砂だね♪」

保「どうして？」

N児「だって、大きくなるし、硬くなるし、キラキラになるもん♪」

J児がみんなに教えてくれたたからの砂のおかげで会話が弾む♪

仕上げの砂がない環境で、いろいろな場所で磨いてきた子どもたちだったが、どうやら

「しっくり」する砂に出会い、夢中でかけて磨いている。「かけて、かけて、コロコロぎゅっ・ぎゅっ」

するとn児が「みんな来て～！！僕もたからの砂見つけたよ～！」と誘う。「どこ～?!」とみんなで走り出す。



○J児がきれいな泥だんごに仕上げるため思考する思いを汲み取り、保育者から提案する。

☆保育者の提案がきっかけになり遊びが深まっていくことをねがった。

●○ビニール袋に名前を書く。名前を書くことで「自分の大事なもの」をより大切にする心を育む。

●降園前の発表タイムの場面をつくる。

○心を揺り動かされた体験を話したり、友達の考えに触れ、新しい見方や考え方を知り、「すごい！」や「やってみたい！」をクラスで共有する。

○友達や保育者に話したい！見せたい！気持ちを大切に受け止める。さらに一人一人のよさを認める声がけをし、価値づけをする。

○考えたり、試すことを友達や保育者と一緒に楽しみ、共有できるように配慮する。

☆子どもの言葉・さらなる探究心を逃さない。保育者も駆け出す！「なに？どこ～?!」



ここ、黒くなるよ



あっ、壊れた・・・



n児「**ここ（滑り台下）もたからの砂！カチカチになる砂だよ**」

するとr児は

r児「**僕はここ（畑）がたからの砂！ここで作ると黒くなるよ**」

J児は昨日作った泥だんごを布で磨き出す。

J児「光ってきた～！！」

J児が布で磨く様子を見て真似をしたN児だったが、

N児「あっ！壊れた・・・」

と手のひらの泥だんごを眺めている。

J児「**まだ早いんだよ**」

N児「どうなったら（磨いて）いいの？」

J児「自分で（何回も作って）考えた方がいいよ」と、J児なりにアドバイスをしていた。

・この日の降園前の発表タイムには、泥だんごを作ったことを話したい子どもたちがズラリと並ぶ。「泥だんごを作りました！」「初めて作りました」「光りました」「壊れました。でも、ピカピカ光るきれいな泥だんごを作りたいので、もう一回挑戦しました！」

泥だんご作りを通して感じた**わくわくドキドキの思い**を一人一人が**自分の言葉で話した**。

友達の発表タイムから「やってみたい！」明日の意欲につながる♪

～「**手がおっきくなった！**」～

・泥だんごを作ってみたいけど・・・他児の作り方をじっと見ながら、なかなか一步踏み出せなかったy児。

y児「先生と一緒に作る」

と自分の気持ちを伝えてくる。保育者はy児の思いに応え一緒に作る。

y児の手は泥と砂でボコボコになってきた。

y児「先生、見て！手、おっきくなった（笑）！」と見せてくる。なんか嬉しそう。

すると一緒に作っていたr児が

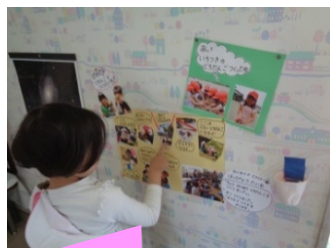
r児「**頑張った証拠だよ！**」

と褒めてくれた。y児もニコッと笑う。

片付けで入室したy児。**玄関の泥だんご作りの掲示物をじっと見ていた。**



見て！手が（笑）！



yちゃん、いいぞ！  
「もっと」の出会いが、「やってみよう！」の出発点

○仕上げの砂に適した場所を比較し、思考する姿を認め、共感する。

○子どもの気付きや発見を友達と教え合う姿を認める。

☆子どもたちは砂の質の違いを言葉で表現している。「サラサラ」「ほわほわ」「黒くなる」など。「たからの砂」と表現したのは、イメージに近い砂に「出会い」、「いいね！」と納得できたからと考える。

●「みんなに教えたい！」の意欲に応える、発表タイムの場面をつくる。

☆できた泥だんごを見せながら発表したのは、満足感・充実感から「見せたい！」と心が揺り動いたからと考える。壊れた子からは実現するために諦めず、挑戦する言葉が聞かれた。

●不安な気持ちを汲み取り安心して遊べるよう寄り添う。「やってみたい」から「やってみたら楽しかった！」になるよう一緒に楽しみながら友達との遊びを仲立ちする。

○y児の変容を認め、言葉をかけてくれたr児の気持ちが嬉しいことを伝える。





青い布の方が光る！



### ～「緑の布より青い布の方が光るよ」～

- ・お気に入りの砂を見つけた子どもたち。それぞれの場所で仕上げの砂をかけ、光る素が出るまでひたすら親指で磨く。布で仕上げるタイミングを図り、いよいよ仕上げ！

r 児は用意されている緑と青、2枚の布で磨き、どちらが光るかを比較をしていた。

r 児「うわっ！ **緑より青い布の方が光るよ**」

保「どうして緑より青の方が光ったの？」

r 児「青い布の方が厚いから？ツルツルだからかな？」

とr 児になりてに考えたことを話してくれた。青い布で磨き続けるとどんどんツヤが出てきた。心揺り動かされたr 児から**豊かな言葉が次々に溢れ出した**。

「**うわっ！こんなに光ってきた！**」

さらに磨き続けると、

「**ピカピカになってきた！！**」

「**うわ～！！まじでピカピカ！！最高！！**」

### ～「泥だんご職人、現る！」～

- ・「(布で) もう磨いてもいいかな？」

「まだじゃない？」

「もうちょっと砂かけないとダメだよ。壊れる」

「お父さん指(親指)でいっぱい磨くとキラキラのもとが出てくるからそれまでダメ」

R 児「布は、緑の布の方がいい」

r 児「青い布の方が光るよ。まじで光るよ」

まるで泥だんご作り職人のような会話。

自分がわかったこと、感じたことを**教え合う**。

**友達のアイデアやアドバイスを参考にしながら、さらに「自分のいいこと」を発見している。**

**みんなで「ピカピカ光るきれいな泥だんご」を作るために！！**

### ～「雨の日でも磨ける場所発見！」～

- ・「先生、雨でも磨ける場所見つけた！」

とN 児が呼びに来る。

N 児「ほら、**屋根があるから雨が降ってもこの砂はぬれない。屋根があるから暑くないし**」

N 児の発見は**園全体に広がる**。**3歳児、4歳児も一緒に磨いている**。

- 仕上げの布はこれまでの教材の工夫からジャージ素材のものを準備している。新たに、色の違う(青)ものを準備したが、微妙に厚みや質感の違いがある。

- 比較し、感じた事を伝える姿に應える。

「先生はどっちの布にしようかな？」

- ☆実体験から湧き起こる言葉、表現の豊かさ！r 児はお気に入りの布を見つけた！

- 砂のかけ方やタイミング、磨き方の工夫をする姿を認めながら、さらに「もっと！」の意欲につながる遊びの姿を支えていく。

- ☆雨でも磨ける場所に気付いたのは、これまでの体験や知識が生かされている。



屋根の下はぬれてない





～「泥だんご名人、誕生！」～

y児「見て！」

「うわっ！光ってる！！」

「yちゃん、子どもの泥だんご名人だ！！」

できた！ピカピカ光るきれいな泥だんご！

見て！ピカピカ！

☆友達の完成を自分事のように喜び合う子ども達。言葉や表情の中に、これまでの頑張りや、諦めずに粘り強く挑戦したから育まれた豊かな心、柔軟な心を読みとった。

## ◆考察◆ 実践③ 光る泥だんごを作ろう！ 5歳児

- ・日々の遊びの積み重ねや発表タイムがきっかけになり、実現したい泥だんご作りのイメージが明確になった。「ピカピカ光る、きれいな泥だんごを作りたい」を実現するため、仕上げの砂を比較し、探究し、伝え合う中に、主体的・対話的で深い学びにつながる「あそびあい、かんがえあう、ゆたかなところ」の姿がみられた。

「出会い」は「やってみよう！」の出発点♪

### 観る

「うまくできるかな」失敗を恐れていた子も友達の刺激から「やってみたい」と心を揺り動かし挑戦！失敗を繰り返しながら「できた！」を味わい心の成長が感じられた。



### 支える

イメージの実現のために試行錯誤、探究する姿を全職員で支えた。保育者も一緒に「いいね！」を共有！

共有の「出会い」から「もっと！」の挑戦！

### 振り返る

5歳児が小さい子に教えたりする異年齢交流の場面を大切に。「資質・能力」や「10の姿」に照らし合わせ、育ちの理解を深めた。



### 工夫する

発表タイムで「いいね！」や「失敗」の悔しい気持ちもクラスで共有。実物を見せる、質問し合う姿から発表タイムの質が向上した！



課題

自己解決

成果を実感

振り返り

「ピカピカ光る、きれいな泥だんごを作る！」との出会い

「仕上げに適した砂（たからの砂、魔法の砂）見つけた」

砂を足で削るといい砂が出る ・ 磨き始めるタイミングや布を比較する

「こっちの布が光るよ」「（磨くタイミングは）今だ！」

「まじで、ピカピカ、最高！！」「壊れた」「失敗・・・どうして？」

「見て！」「発表したい（話したい！見せたい！）」

「すごいね！」「またチャレンジしよう！」「真似してみよう！」

- ・保育者は「やってみたい！」を実現しようとする過程や問題を解決しようと真剣に試行錯誤する姿に寄り添い、支えた。心揺り動かされた瞬間の言葉や、クラスでの発表タイムから共に学び合い、遊びの質を高めていくことが、「科学する心」を育てる。

## 6、泥だんご作りの実践から 「科学する心を育てる」保育の考察

### ①キーワードを手がかりに 「3・4・5歳児の育ちと遊びをつなぐ」

- これまでは泥だんごを作る姿に焦点を当てていたが、今年度、泥だんご作りの遊びを写真やエピソードをもとに改めて振り返った。すると、泥だんご作りに夢中で遊び込む姿につながる出発点となる「出会い」や「たっぷり、繰り返し試す体験」「じっくり遊ぶ時間と場の保障」「共に感じる保育者の感性」の大切さがより明確になった。その後、遊びを「出会い」や「たっぷり、じっくり」の視点を意識して見取ったことで、遊びの質を高めるための声かけや環境構成の工夫につながった。「出会い」や友達・異年齢交流を通し、憧れや模倣、「やってみよう！」好奇心や「もっとこうしよう！」と思考を深める、育ちと学びの道筋が見えた。
- 「なんでだろう？」「そうだ！」「こうしよう！」の実体験を繰り返すことに、「できた！」の成功の種があった。「出会い」「時間と場の保障」「異年齢交流」「教え合い」の環境を意図的、計画的につくり、今後も「やってみよう！」の意欲から「科学する心」の芽生えを支えていきたい。

### ② 実践事例集に照らし合わせる 「保育者の今後の方向性」

- 保育者の視点で照らし合わせたことから、3・4・5歳児の子どもの育ちや、遊びの質を高めるためのキーワードがより具体的にみえてきた。今後の「科学する心を育てる保育」に生かしていきたい。

### ③ 「資質・能力」、「10の姿」に照らし合わせる 「深い子ども理解」

- 泥だんご作りの遊びの姿に照らし合わせ、遊びを通して育まれる学びを明確にした。中には見取りの難しい項目もあった。育ちの姿を各年齢で捉え、「科学する心を育てる保育」の具体的な援助や環境構成の工夫に生かしていきたい。

### ④ 「科学する心を育てる」を 保育者・子ども それぞれの視点で読み解く

☆保育者は、「科学する心を育てる」視点をもつことで、子どもの姿を深く読みとることができるようになった」「子どもを深く読みとれることで、保育がより楽しくなった」

- 「科学する心」「見取りの視点」を共通ワードとして保育を語り、育ちを支えることにつながった。
- 「あっ！」「そうだ！」「どうして？」「こうしよう！」「もっと！」など、子どもの遊びを見取る視点を保育者が工夫して使えるようになった。
- 見取る力の高まりにより、事例研究やミーティングに深まりが出てきた。子どもたちの考えや思いを引き出す声かけ、「もっと！」につながる環境構成の工夫に生かされている。
- 保育を観る意識の高まりから、保護者にも子どもの姿をより具体的に伝えられるようになった。

☆子どもは「出会い、学び合い、思考・探究する力が育まれた（主体的・対話的で深い学びへ）」

- 保育者の子どもの気付きや考えを引き出す声かけ、心揺り動かす実体験を大切にする環境構成の工夫から、じっくり、夢中で遊び込む、継続性のある遊びの姿が増えた。
- 遊びが継続され、心揺り動かされる実体験を通して、表現する力の高まり、語彙が増えた。
- 友達との教え合いからクラスや園全体に好奇心や探究心が育まれ、「科学する心」が広がっている。
- 子どもの変容を保護者も感じてくださっている（保育アンケートで、「意欲」「考える」「挑戦する」などの視点で子どもの変容や成長を感じてくださる保護者が増えている）。



## 泥だんご作りから育まれた資質・能力

| 知識・技能の基礎                                                                                                                                                       | 思考力・判断力・表現力等の基礎                                                                                                                                                                                         | 学びに向かう力・人間性等                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>泥だんごができる土を見わかる。</li> <li>泥だんごのものの水の絞り方、砂のかけ方を工夫する。</li> <li>使う砂により出来上がりに違いがあることに気づき工夫する。</li> <li>磨く布を使い分ける。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>繰り返し試す中で、どの土や砂がイメージに合うかを考え、様々な場所を探し試す。</li> <li>絵本や図鑑、これまでの体験から色付きの泥だんご作りに挑戦しようと材料や用具を工夫する。</li> <li>友達の泥だんごと比較し、作り方を真似たり、自分なりに工夫したりしながら、うまくできるようになる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>「壊れてももう一回作ってみよう！」と諦めずに挑戦する。</li> <li>うまくできないことを「どうして？」と振り返って思考し、「ピカピカ光るきれいな泥だんごを完成させる」実現に向けて試行錯誤を重ねる。</li> <li>友達と教え合う。降園前の発表タイムでクラスみんなに話したり、質問をしたりする。</li> <li>友達の刺激を受けて挑戦する意欲が生まれる。</li> <li>「できた！」充実感や達成感を味わうことから、さらに「もっと！」の意欲をもつ。</li> </ul> |

## 「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」に照らし合わせる

### 豊かな感性と表現

友達と表現し合い、様々な気づきや考えの面白さに気付く。心揺り動かされる実体験から言葉が溢れる。

### 健康な心と体

「うまくできない」「壊れた」でも諦めず「もう1回！」と挑戦し頑張る。

### 自立心

自分のやりたいことを実現するため行動する。友達と一緒に考えたり力を合わせようとする。

### 社会性との関わり

異年齢交流から友達関係の広がり、関わり方や遊び方を学ぶ。

### 言葉による伝え合い

自分の考えたことを言葉で伝える。友達や保育者の言葉にも耳を傾けたり、聞いたりする。

### 協同性

友達と一緒に考えを巡らせたりして、「できた！」満足感を味わったり、困難を一緒に乗り越えようとする。

### 数量や図形への関心・感覚

数を数えたり、形や大きさの比較をする。

### 自然との関わり

水や泥の感触を楽しみながら、変化に気づき、好奇心や探究心をもって挑戦する。

### 思考力の芽生え

気付いたこと、考えたことを話す。イメージを実現するため比較したり、真似たり、試行錯誤する。

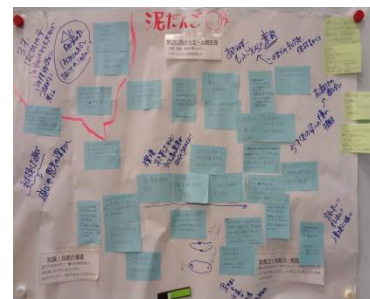
### 道徳性・規範意識の芽生え

自分たちの遊びの場の決まりや約束を考え守ろうとする。自分の気持ちに折り合いをつけたり、友達と譲り合ったりする。

## 7、2018年度論文 2019年度へのアプローチから 実践経過の考察

### ①全職員で学び、感性を高める ～全員保育！チームワーク！～

- ・エピソード、写真を活用しながら子どもの実体を話し合う。より深い子ども理解を目指し、「資質・能力」や「10の姿」に照らし合わせた。
- ・「10の姿」に照らし合わせた事例を作成し、全職員が発表、質疑応答を行う。一昨年の事例研究から様式は自由記述にしている。自由記述にすることで、一人一人の書き方の工夫、変容がみられる。保育者の「観る・支える・工夫する・振り返る」力、「書く・話す」力を高め合っている。昨年は「道徳性と規範意識の芽生え」「言葉による伝え合い」について事例研究をおこなった。



### ②言葉や表情を読みとる ～瞬間を逃さない～

- ・「あっ!」「そうだ!」「どうして?」「やってみよう!」の心の動きを逃さず、キャッチすることに努めている。カメラ・メモ帳を所持し、記録・振り返り、その後の保育の工夫に活用している。
- ・言葉にならない「言葉」を読みとるため、一人一人の子どもの気持ちに寄り添い、多面的・多角的な見取りを全職員で行っている。

### ③ 心揺り動かす感動体験を大切に作る ～想像を創造する～

- ・子どもの遊びの実体を話し合い行った、3つの環境構成の工夫。
  - 1ー遊びのイメージや言葉をもっと豊かにすることをねがい、例年は除草していた園庭の草を残し、遊びの創造力を刺激した。
  - 2ー繰り返し試したり、比較する姿をイメージし、泥だんごの「仕上げる砂」を置かず、思考力を育んだ。
  - 3ー園庭の遊具に「バランス感覚」の刺激が少ないと考え、子どもの遊びや身体能力をより刺激する遊具を考えるが、保育者だけではできなかった。保護者の力をお借りして実現することができた!



食べにきてください

ただですよ!



たからの砂  
新境地開拓!

保育者の「やってみ  
たい!」に、力を貸して  
いただきました。



完成!

ぐらぐらするね!



### ④つながる力・つなげる力

- ・「発信」は園と家庭、地域をつなぎ、保育の理解、協力につながることから積極的におこなう。スイカやカボチャ、メロン、ミニトマトなど、家庭で食べた野菜や果物の種を子どもの「やってみたい!」に寄り添い持たせてくださることは、「科学する心を育てる」保育に理解があるからと考える。いただいた種の生長を発信したり、実際に見て頂きながら保護者と語り合えることは、園の保育への理解をより高め、信頼関係を築くことにつながっていると感じている。
- ・公開研究会を開催し、実践を通して「遊びは学び」を発信する。市内の幼児施設・学童保育施設、小学校、公立高校教師・保育士を目指す学生も参加していただいた。「遊びの見方がわからない」という話も聞かれた。これまでとこれからのアプローチのやり方を再検討、実践につなげたい。



その子らしさや子どもの興味関心を大事にする保育を保護者と共有していきたい。

見て・感じ、「やってみたい！」意欲や、新しい知識との出会いから、遊びの深まり、思考力が育まれる。保護者も見てくださり、子どもの発見や気づき、園での笑顔に触れていただくことは、園と家庭のコミュニケーション、安心感にもつながると感じている。





## 4歳児



5歳児への**憧れから模倣**し、できなかったことにも粘り強く挑戦する姿を丁寧に見取り可視化する。初めて雲梯に挑戦する「出会い」の心の動きや、子どもたちの「できなかったことができた！」をその後の活動の意欲につなげている。

## 5歳児



遊びの契機と、「アブラムシがきらいな匂いのスプレーを作る」**ゴールを目指し、試行錯誤する姿**を可視化。アブラムシが嫌いな匂いの材料や作り方、道具を工夫しスプレーが完成！見事にアブラムシを撃退し（?!）立派なきゅうりを収穫できるまでのプロセスを掲示する。「やってみたい！」を実現できた満足感や自信を、5歳児の活動の意欲につないでいる。



## 8、2020年度 「科学する心を育てる」保育へのアプローチ

「科学する心を育てる」～豊かな感性と創造性の芽生えを育む～

「出会い」は「やってみよう！」の出発点

あそびあい かんがえあう ゆたかなこころ

### 科学する心を育てる

子どもの姿を語り合い、実態から 保育者の援助・環境構成の工夫をおこなう

**観る** ▶ 子どもの言葉や表情、仕草を丁寧に見取る

- ・生活や遊びの姿を言葉・会話・表情・仕草を視点にありのままに観る。
- ・写真やメモ、職員の話し合いをもとに理解を深める。
- ・言葉にならない思いを読みとるため、一人一人の子ども理解に全職員で努める。

**支える** ▶ 子どものひらめきや考えを受け止め、寄り添う

- ・子どもは「今何を感じ、学ぼうとしているか」を言葉や表情、仕草からさらに読み解く。
- ・考えを引き出したり、その子のよさ・興味を大事にする声かけを意識する（自己肯定感・価値づけ）。
- ・赤湯幼稚園スローガン、全員保育♪チームワーク  
全職員で一人一人の育ちと学びを支えるため、保育者自身の感性を高める意識をもつことを心がける（日々の保育の記録、積極的な発言、事例作成、研修会参加）。
- ・保護者や地域と連携、連動、一体化を図り、子どもの育ちを支える（地域総合型教育）。

**工夫する** ▶ 子どもの遊びの姿と保育者の援助・環境構成から、課題とねらいを考える

- ・教育目標、目指す子ども像に迫るため、3・4・5歳児の発達や実態を考慮し保育の具体的な工夫をキーワードをもとにおこない、育ちと学びをつなぐ（出会い・やってみよう！の意欲・時間と場の保障・模倣、憧れ・共有）。
- ・「やってみよう！」と思い、実現に向けて探究、思考する力を深めるため、ドキュメンテーションの掲示や、発表タイムの場面づくり、異年齢交流の場面をつくる。

**振り返る** ▶ 具体的な手立てについて実践・考察を繰り返す（振り返る）

- ・観る⇒支える⇒工夫する⇒振り返るを、日々の保育で繰り返しおこない、保育者の力量を高め、「あそびあい かんがえあう ゆたかなこころ」を育む保育の独自性を高める。
- ・保護者、地域とつながり合う工夫をする（園だより・地域回覧・クラスだより発行。子育て支援）。
- ・研究テーマ「育ちと学びをつなぐ ～幼児期に育みたい資質・能力をその後の学びにつなぐために～」に迫る公開研究会を2020年度も開催することを希望している。市内幼児施設、小・中・高、学童保育施設に携わる保育者・教員・教育に携わる方と共に、実践を通して語り合い、学び合える時間と場をつくりたい。遊びを観る・学びを感じていただくための具体的な手立てを検討する。

## 9、おわりに

本園の目指す子ども像である「あそびあい かんがえあう ゆたかなこころ」を職員で改めて振り返った。園長のメモには

「ゆたかなこころ

喜び、好き、悲しみ、恐怖、不安、驚き、嫌い、怒り、退屈、悔やむ、感動、興奮、緊張、安心

たとえば 「喜び」の中にも・・・

嬉しい、楽しい、幸せ、スッキリ、笑い、満足、総会、感心、和む、癒される、わくわく、興奮、高ぶる

「好き」の中にも・・・

愛する、恋する、憧れる、欲する、好み、思いやり、尊敬する、気遣う、同情、尊敬

等々、日本には感情を表す言葉146種類あるとのこと。

友達とのいろいろな関わりが広がり、深まることで、こうしたいろいろな感情（こころ）が耕され、育っていく」と書かれてあった。

5歳児が夜の幼稚園で「やってみたい!」を実現する「わくわく♪ドキドキ!ハッピーナイト☆」の行事に向けた話し合いの中で、担任は「わくわくってなんだろう?ハッピーってなんだろう?」と尋ねてみた。子どもたちからは次のような言葉が出てきた。

わくわくは、「うれしい!」「楽しい時!」「いいことが起こりそう!」

ドキドキは、「怖い」「緊張」「いいことがあった時もドキドキするよ!」

私たち保育者は子どもたちが、「いいことが起こりそう!」とわくわくする「出会い」を創り出し、たくさんの体験や、友達や保育者、人との関わりを通して、いろいろな感情（こころ）を耕していきたい。

子どもとの「出会い」は「やってみよう!」と心を動かす出発点♪子どもの心が揺り動く瞬間のわくわくドキドキに寄り添い、共有し、これからも保育を楽しんでいきたいと思う。

未来に輝く子どもたちのために、この先も「科学する心を育てる」保育を通して、保育者の感性と力量を高め続けていきたい。

参考文献 : ソニー幼児教育支援プログラム 実践事例集 vol. 16  
田村 学 『深い学び』 東洋館出版社

研究代表・執筆氏名 須貝智美